

福岡県立朝倉高等学校 平成 30 年度 学校関係者評価書 ( 定時制課程 )

福岡県立朝倉高等学校長 殿

福岡県立朝倉高等学校 学校関係者評価委員会  
委員 合谷 精一郎 印 本石 昇二 印

大竹 美喜枝 印 藤井 勝 印 早野 展生 印

学校番号

80

学校関係者評価委員会の評価結果を次のとおり報告します。

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)	自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価					
学校運営方針	校訓「聡明・自立・敬愛」を掲げ所に、社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培うとともに、社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する力を育成する。	A	A	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である				
昨年度の成果と課題	平成30年度重点目標				具体的目標			
全職員で様々な情報を共有することができ、生徒へのきめ細かな指導、学校運営ができた。生徒の出席率は約89%であり、おおむね良好と言える。進路指導の取組を強化することで、生徒の進路意識の向上が見られ、卒業生の進路希望達成率も高かった。今後も地域社会で活躍する人材育成をめざし、授業改善を重ねたい。	積極的にチャレンジする喜びを持ち、自らの将来を切り拓く人材の育成。 生徒理解に努め、情報を共有し、「鍛えて、ほめて、伸ばす」指導により、生徒の可能性を拡大する指導体制の確立。 保護者や地域と連携し、生徒の就学と就業を支援する環境整備を行う。				・段階的な指導で基礎学力を定着させる。AL型授業で、コミュニケーション力を向上させる。 ・生徒会活動、進路指導を通じ、「自信」と「志」を育成するキャリア教育を推進する。 ・情報交換会、親の会、中学校訪問等による情報共有で「チーム朝高定時」としての指導体制を強化する。 職員研修会により、職員の教育相談力や生徒指導力を向上させる。 ・学校案内パンフレット、HPや朝倉通信で、校内外へ生徒の活躍を発信する。 ・ハローワークとの連携を深め、職場開拓により、就労を支援する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見		
教科指導	生徒理解の深化を図りつつ、生徒の成長を待つ。	毎週の生徒情報交換会により生徒の状況の共通認識を図る。 家庭・職場訪問などを行い、家庭環境や生育歴などからの情報を指導に生かす。	A A	A	・SSWに助力をしていただいたりSCによる研修を受けたりして職員の意識向上の努力をしながら生徒情報交換会を維持することができた。それにもかかわらず、年間の平均出席率が85%にとどまり、退学者が数名出たということは、生徒の変化に職員集団がついていけないということになる。よって、次年度はSSWやSCとの関係をさらに深め、他の機関とも連携できるところは連携しつつ、生徒情報交換会をさらに有効なものとしていく必要がある。 ・SEL-8Sに取り組むなど、授業改善の努力を積み重ねていくことができた。次年度も生徒のコミュニケーション能力を高める教材開発を続ける必要がある。 ・授業の楽しさは5段階評価の3.9であった。生徒が「あの授業があるから学校に行こう」というほどに授業の質を高めていきたい。	A	学校からの要望で創立110周年記念事業として行ったICT教育機器の導入各クラスの授業風景を見て大きな学力向上につながるといった。先生方の学校での仕事内容の多さにびっくりしますが、健康に留意され、立派な人間として生徒諸君を導いていただくことを心から願っています。	
	自信と将来の目標に繋がる学力をつける。	教科の神髄を伝えることのできる授業を展開する。そのためにAL型授業の実行などの工夫によって、生徒に学校が貴重な学習の場であることを認識させる。 新入生基礎学力観察週間を年度始めに設置し、学力の把握・実態に応じた指導に努める。 学期ごとの補講を実施し、基礎学力の確保を行う。 検定などの授業以外の学習に取り組むよう意識づける工夫を行う。	A A A					
	全員の進級・卒業を目指す。	年間平均出席率が90%以上となるように取り組みを行う。 「楽しく学びがいのある授業」を作ることによって、さまざまな人間関係を形成する。 出席に問題のある生徒への対処が担任だけの負担にならないように、情報交換会を活用し、互いに助け合う。	B A A					
	HR活動や総合的な学習の時間を充実する。	HRの計画予定調整を行い、充実した学校生活の一部となるようにする。 各教員の「総合的な学習の時間」の持ち時間を利用して、生徒も教師も楽しめる授業を作り上げる。	A A					
	中学校等への広報活動を充実しつつ、入学検査を運営する。	志望しそうな生徒がいる中学校や関係機関を手分けして訪問する。 学校見学を随時実施することによって、受検生の意識付け・進学の意志の確定を進める。 入学検査を着実に運営する。	A A A					
	生徒指導	集団の一員としての自覚を育てるための生徒会活動を活性化する。	生徒会役員会を定例化する。 行事の中で、生徒会への適切な役割分担と職員による評価や声掛けを実施する。 アンケート調査などにより、生徒の意見を取り入れた生徒会行事を工夫する。					B A A
		生徒の状況把握に努め、積極的に生徒との関係づくりに努める。	日ごろから生徒へ積極的な挨拶、声かけを行う。 家庭訪問、電話連絡等により保護者との連携を図る。(無断欠席が2日続いたら担任より保護者に電話連絡をおこなう。)					A A
		落ち着いた学習の場としての秩序ある学校づくりに努める。	授業は最大の生徒指導の場と位置づけ、授業規律の徹底(スマホ・携帯電話)を図る。 不測の事態に対する危機管理の徹底と生徒への安全指導の充実を図る。					B A
		生徒の状況変化を早めにつかんだ生徒指導に取り組む。	生徒情報交換会の一層の充実をはかり、職員の共通理解のもとで生徒指導を行う。 いじめアンケート・いじめ防止対策委員会を定期的に実施する。					A A
		交通法規をはじめとした遵法精神の育成と社会でのマナーを身につけさせる	交通安全教室・防災意識の向上を図る教育を計画・実施する。 日頃から生徒の置かれた環境や状況をしっかりと把握し、生徒の心を掴んだ指導・助言を心がける。					A A
進路指導		「働きながら学ぶ」生徒を育成し、社会人としての自立を支援する。	ハローワークへの登録を奨励し、ハローワークと連携しながら就業を支援する。 定期的に就業状況を把握し、就業促進に役立てる。 職場訪問で就業状況を把握するとともに、就学と就業の両立ができるよう、雇用主との理解を深める。	A A A				
	進路に関するHRを充実させ、生徒が自己の進路に希望が持てるようにする。	進路に関するHRを実施するための情報収集、教材作成を積極的に行い、各担当がHRで実践できるよう連携をはかる。 進路講演会を実施し、自己の生き方や働く意義について考える機会を与える。 進路について考える材料および、目標実現に向けた各種情報を発信する。	B A A					
	3、4年生の進路希望実現への挑戦に対し、最大限の支援をする。	就職・進学に関するガイダンスを実施し、就職活動や受験の流れ、必要な手続き等を把握させ、円滑に進路活動が進むよう支援する。 就職・進学のための作文・小論文及び面接指導を、学校全体で組織的に行う。 ハローワークと連携し、高卒求人票、一般求人票を提供し、就職希望者を支援する。	A B A					
	生徒一人ひとりの適性や能力に応じた指導・助言を行う。	定期的に進路希望調査を実施し、生徒一人ひとりの進路希望を全職員が把握することで、進路実現に向けた組織的な指導に役立てる。 個人面談や三者面談を実施し、生徒一人ひとりの適性や能力および進路希望に応じた適切な指導・助言を行う。 生徒一人ひとりの希望や能力に応じた資格・検定試験へのチャレンジを促す。	B A A					

学校運営計画（4月）				評価（3月）		自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価	
学校運営方針		校訓「聡明・自立・敬愛」を掲げ所に、社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培うとともに、社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する力を育成する。		A	A	A	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
昨年度の成果と課題		平成30年度重点目標					
		具体的目標					
全職員で様々な情報を共有することができ、生徒へのきめ細かな指導、学校運営ができた。生徒の出席率は約89%であり、おおむね良好と言える。進路指導の取組を強化することで、生徒の進路意識の向上が見られ、卒業生の進路希望達成率も高かった。今後も地域社会で活躍する人材育成をめざし、授業改善を重ねたい。		積極的にチャレンジする喜びを持ち、自らの将来を切り拓く人材の育成。		・段階的な指導で基礎学力を定着させる。AL型授業で、コミュニケーション力を向上させる。 ・生徒会活動、進路指導を通じ、「自信」と「志」を育成するキャリア教育を推進する。		A	A
		生徒理解に努め、情報を共有し、「鍛えて、ほめて、伸ばす」指導により、生徒の可能性を拡大する指導体制の確立。		・情報交換会、親の会、中学校訪問等による情報共有で「チーム朝高定時」としての指導体制を強化する。 職員研修会により、職員の教育相談力や生徒指導力を向上させる。			
		保護者や地域と連携し、生徒の就学と就業を支援する環境整備を行う。		・学校案内パンフレット、HPや朝倉通信で、校内外へ生徒の活躍を発信する。 ・ハローワークとの連携を深め、職場開拓により、就労を支援する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
健康・安全指導	一人ひとりの生徒が心身ともに健康で、穏やかな学校生活を送ることができるように、全教員が指導できる体制づくりを構築する。	生徒が抱えている心身の相談を受けて、全職員での情報の共有化を図りつつ、適切な指導・助言を行う。 日常の健康観察を常に行い、生徒の健康面に配慮して、穏やかな学校生活へ繋がる指導・助言を行う。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が心身共に、安心して学校生活を過ごすために、健康・安全指導を継続して行った。</li> <li>・心やその他の様々な悩みを持つ生徒に対する窓口となり、個別に対応を図ると共に、SSWとの連携や職員全員が情報共有するなど、該当生徒に対し個別に指導する体制を今後も実践していきたい。</li> <li>・薬物乱用防止教育では、生徒が講演会等を通して、被害に遭わない様に啓発に努めた。</li> <li>・性教育については、担当職員が本校の実態に合った講話を企画し、全職員で取り組むようにしたい。</li> <li>・保健委員会では、保健指導を自覚して主体的に取り組むため、定期的に委員会を開催し、保健委員の活動を実施できた。次年度は校内発表等も含めた活動を行いたい。</li> <li>・筑後地区保健会定時制部会では、生徒が積極的に参加して、他校生と交流を深め、本校の保健委員の取り組みについても全体の場で発表を行い、学校外における社会的スキルの向上が見られた。</li> <li>・給食については、喫食率の向上に向け、リクエストメニューや入学時のオリエンテーションを充実させ、食への感謝の心や、残食を減らす意識を持たせ、バランスのとれた栄養補給に努めていきたい。</li> </ul>	A	学校説明でそれぞれの立場での説明には生徒に対する熱い思いを感じることができ、本当に生徒は幸せだと強く思いました。将来朝高で学んだことが大きく開花することと心から期待しています。
	心の健康相談を計画的に行い、生徒の実態に即した支援体制づくりを行う。	教員の教育相談能力の向上に向けた職員研修会を設定して、様々な生徒のニーズに応えていける体制づくりを行う。 「スクールカウンセラー相談」、「心の校医健康相談」等の学校が設定している相談窓口を活用する。	A A				
	「薬物乱用防止教育」や「性教育」等の充実を図り、生徒の健康・安全面に配慮した学校生活での環境整備を推進する。	生徒指導部と連携して、「薬物乱用防止教育」や「性教育」等に関する講演会・講話を実施する。 問題を抱えた生徒に関しては、全職員で情報の共有化を図り、その場での助言を参考にし、担当が個別に生徒指導を行うことができる体制づくりを図る。	B A				
	保健委員長を中心に各保健委員が主体的に委員会活動に取り組むことにより、職員と生徒が共に保健活動を行う機会を設けていく。	筑後地区保健会定時制部会への参加を通して、職員と生徒が共に研鑽を図る。 定期的に保健委員会を開催して、各学年で保健委員が保健指導を行う。	A A				
	「食育」指導を推進する。	生徒に給食意義を理解させ、バランスのとれた栄養補給に努め、喫食率の向上化を図る。	B				
	職員研修を推進する。	「授業公開週間」では、ICTを活用した授業やAL型授業により、思考力・判断力・表現力を育成することを念頭に置き、授業に臨む。 校外での研究会等で学んだことを、定例の情報交換会を通じて共有する。 教育センター等の研修については、職員に十分周知し、参加を促進する。	A B B				
研修	家庭や地域社会との連携を深める。	親の会や保護者会を利用し、保護者と連携して、生徒を見守り育てる。 一学期早期に、入学生徒の出身中学校を訪問し、担当職員と情報交換を行なう。 一学期早期に、転編入生徒の前籍高校を訪問し、情報交換を行なう。	A A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業公開週間」では、ICT機器を使用した授業展開をテーマに、相互に授業を参観し意見を出し合うことで、自己の授業を振り返ることができた。次年度もICT機器を使用した授業を発展させたい。</li> <li>・入学生の出身校訪問や転編入生徒の前籍校訪問で対象生徒の性格、対応方法など詳しい情報を知り、特に不登校経験のある生徒について、不登校にいたった経緯や指導歴を知ることで本校での指導に活かすことができた。</li> <li>・本年も「学校案内パンフレット」を作成し、本校定時制課程の教育活動の特徴について中学生やその保護者など周囲に示し、広報活動を行った。また、HPも随時更新し、学校行事や教育活動を適時報告して、閲覧者に本校の活動を伝えた。次年度はHPのデザインを変更し、躍動感のある生徒たちの活動や具体的な進路実績などを伝えられるようにする。</li> <li>・「未来を切り拓く人材育成事業」では、学年を越えて陶芸教室や企業・学校見学を実施し、通常の学校生活では経験できないことを経験できた。次年度も進学や就労意識の啓発、キャリア教育や生徒が深く学べる内容にしてきたい。この事業について、生徒アンケートは共に高評価で、次年度も継続していきたい</li> </ul>	A	少子化の影響で学校教育の在り様もずいぶん変化してきていますが、先生方のお話の中で強い信念がうかがえ朝高の素晴らしい校風とともに、朝高の魅力を大いに発信してほしい。
	本校の教育目標や現状についての広報に努める。	中学校訪問、中高連絡会などを活用し、広報を行う。 市町村広報誌に生徒募集の掲載を依頼する。 学校パンフレット、朝倉通信で、学校内外への生徒の活躍を発信する。 ホームページを利用し本校定時制の教育活動を伝える。	A A A A				
	「未来を切り拓く人材育成事業」を通して、地域文化理解と進路意識の涵養を図る。	陶芸教室を継続し、発展させる。 進路指導部と連携し、企業体験訪問を実施する。	A A				
	特設授業の充実を図る。	各学年のテーマに沿った内容を実施する。 生徒を引きつけ、考えさせる教材を用いて、内容の充実にも努める。	A A				
	研修会への参加を促す。	年度当初、各研修会の紹介をおこない、年間一人一回は研修会に参加する。	A				
	人権教育						